

若い方も要注意!

『子宮頸がんの予防と健診』

20～30歳代の若い女性の子宮頸がんが増加しています。初期のうちには自覚症状がありません。しかし健診でがんになる前に発見すれば、ほぼ100%予防することができます。20歳を超えたら子宮頸がん健診を受けるようにしましょう。(推奨：2年に1回)

子宮頸がん

子宮の入り口である頸部の上皮から発生
→ 30～40歳代に多く、20歳代でも増えている。
(症状) 初期に症状はなく、がんが少し進行し始めた時に
不正出血や下腹部痛・腰の痛みなどがあります。

子宮体がんは、
子宮の奥にあたる体部の内膜から発生し、
50歳～60歳代の閉経後の方に多くみられます。

主な原因

HPV(ヒトパピローウイルス)による感染
※性交渉で感染するが、がん化する
のはごく一部です

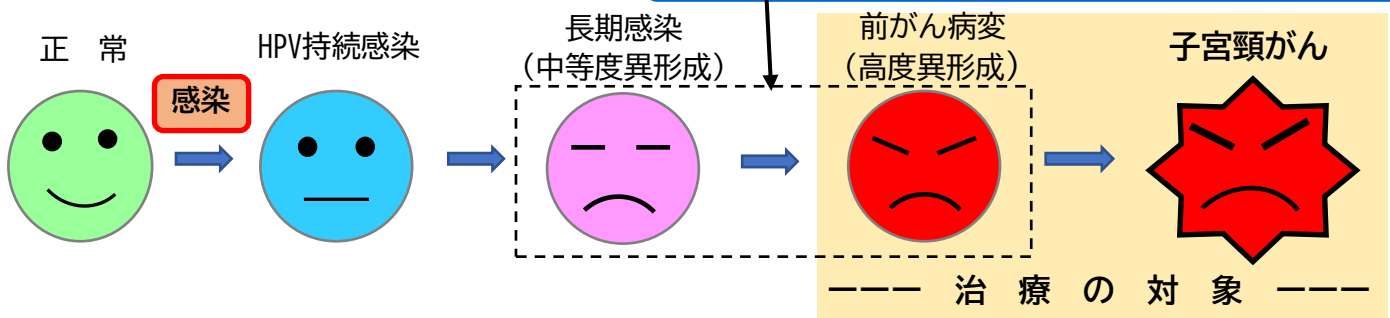
発症しやすい人

- 性交渉の経験がある
- 妊娠、出産回数が多い
- 喫煙



子宮頸がんの進行

「異形成」の段階で発見すればがんの発症を防げます



- ① HPVに感染した人の中で、10人に1人がウイルスを排除できずに長期化します
- ② 中等度以上の異形成に進行すると治療が必要となります
- ③ 高度異形成の段階で長期間放置すると子宮頸がんになる可能性が高まります

予防①

HPVワクチン



抗体をつくり、感染を予防します。
若い人ほど有効とされています。



予防②

定期健診

早期発見のためには、定期的な
健診が大切です！ 20歳を超えたら
市のクーポンをうまく活用して
婦人科健診を受けましょう！！

当組合一部補助あり (35歳以上)

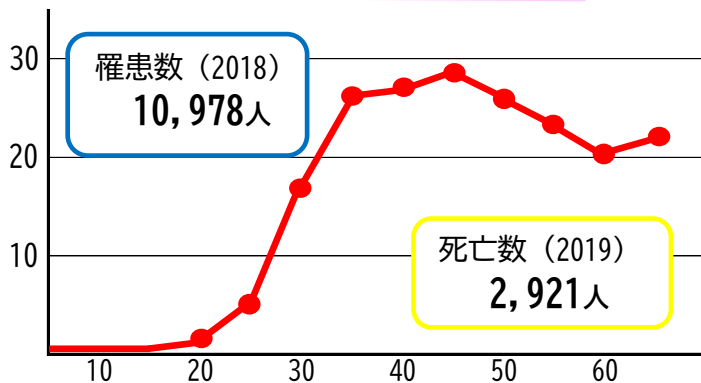
本人(被保険者) → 婦人科健診

配偶者(被扶養者)

→ 家族健診、婦人科健診

※子宮頸がん検査が項目の中に
含まれています。

人口10万人対 年代別罹患率 (2018)



国立がん研究センターがん情報サービス
「がん登録・統計」 (2018～2019)